

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193300058		
法人名	社会福祉法人一寿会		
事業所名	グループホームひがしまつやま寿苑		
所在地	埼玉県東松山市柏崎628-1		
自己評価作成日	平成28年11月14日	評価結果市町村受理日	平成29年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成28年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当苑は、国道に面してはいますが周囲には緑が多く、側には畑や神社、交流のある幼稚園があると静かで穏やかな環境です。施設内はバリアフリーでエレベーターや機械浴槽を設けており車イスの入居者も安心して生活できる環境を整えています。地域との関わりを大切にしたいと考え、地区のイベントへは積極的に参加するように心掛け、ご入居者と地元の方々が触れ合える機会づくりを行っています。入居されている方一人ひとりの暮らしや生活リズムを大切にしたいケアを心掛け、その方の意思を尊重した支援を行うように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・入居者一人ひとりの暮らしや生活リズムを大切にしたいケアを心がけ、意志や人格を尊重した支援を行うよう努められている。また、節分祭、味覚祭、餅つきなど年間通して、法人全体でも事業所単体でも行事が多く、それぞれに職員が知恵を出し、連携し合い、入居者・家族、地域の方々にも楽しんでいただいている。  
 ・ご家族のアンケートでも、「面会に行った時とても自然で家庭的です。スタッフの方は私の一番のよき理解者で、感謝しています」、「家族が参加できるイベントがあり、外出が難しくなった父と楽しいときを過ごせている。写真などで近況がわかり安心することができる」などのコメントが寄せられ、入居者・家族に寄り添ったケアに高い評価が得られている。  
 ・目標達成計画の達成状況については、災害発生時の地域との連携について取り上げ、運営推進会議などで話し合い、お互いの理解が深められたことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念や、事業所の運営方針を理解した上でユニットや委員会等の活動単位で目標設定を行い実践するようにしている。	家庭的な雰囲気大切に、入居者一人ひとりの生活リズムや思いに寄り添ったケアに取り組まれている。新しい職員には、入職時の研修に加え、現場で一緒に考え、やるべきことを具体化し、理念が実践されるよう努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣保育園との交流や地域のイベントへの参加、または地域の方を苑の行事にお招きするなど地域とのつきあいが多く持てるようにしています。	事業所のイベントの際には地域住民や子供たちを招き、入居者と一緒に楽しみ交流を深められている。また、中学生の職業体験プログラムを受け入れたり、管理者が福祉教育の講師を務めるなどの取り組みも行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症関連の研修に参加し、地域の方が安心して相談できる場所になるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者の状況や施設での様子をデータと写真を使い共有している。また、施設の行事にも参加いただいている。自治会長や民生委員、市役所から参加頂くことで地域のニーズなど積極的に伺うようにしている。	参加の民生委員からは地域のイベント情報や防災対策、近隣での孤独死についてなど情報提供をいただいている。特に災害時協力体制では、事業所と自治会双方で実情の共有化を図り、相互理解を進められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に市へ状況報告を行い連携を心掛けている。また、運営推進会議の委員としても出席している。	市担当者とは日常的に連絡を取り合い、運営推進会議には市担当者や地域包括支援センター職員が交互に参加されている。市の図書館まつりに出かけ、展示された子供らの作品を楽しむなど、良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止(予防)委員会を月に一度開催している。その際は、部署を越えて情報を共有し、身体拘束をしないケアを実践しており、現在も身体拘束は行われていない。	職員がストレスを感じないよう、管理者やリーダーが声をかけ、拘束や虐待につながらない対策が取られている。入居者がどういことを嫌がるかなどを研修に取り上げたり、言葉使いにはお互いが気を付けるよう取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員ともに虐待についての外部研修にも参加し常に意識見過ごされることのないよう関係機関との連携にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や計画作成担当者は研修の機会があれば参加し理解を深めるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の為の時間をご家族から頂き、十分に説明をし、ご理解・納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面談の機会や電話連絡などを多く設けるようにしている。ご意見箱の設置をしているが、何より日頃からの会話を大切に、ご意見を頂けるように心掛けている。	入居者からは食事やお墓参りのことなどが要望され、味付けを調整したり、一緒に墓参りに出かけるなどの支援が行われている。家族とは面談や電話で相互コミュニケーションを図り、家族が集まって入居者のお祝いを開くなどの思いにも応えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や職員全体会議の場を設け、共有するようにしている。また、日頃のやり取りを通じ意見を聞くようにしている。	日常的に意見を話しやすい環境が整えられ、新人、ベテランを問わず研修成果なども全員に伝えられている。リビングの掲示物の見直しやカラーボックスを使って物の整理整頓を図るなど、入居者の生活環境の向上に職員の意見・提案が活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談を実施。個人の目標設定を行い、職員一人ひとりが目標を持って就業できるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任職員には法人理念や運営方針を伝えた上、現場での同行研修を実施。 現任研修として今年度は介護技術研修を実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議や介護支援専門員連絡協議会など積極的に参加している。また、市内のグループホームを苑の行事にお誘いしたり、連絡を取り合い情報交換をするなど事業所を超えた連携が図れるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時に本人の不安や悩みを傾聴しホームでの生活が安心して送れるように努めている。入居後も安心して生活が出来るよう日々のコミュニケーションの中で関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は、本人だけでなくご家族の意向も傾聴した上でサービスを組み立て、安心してご利用頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている内容がサービスに繋がるように努めている。また、変化するニーズに対して定期的にプランの見直しを行い、本人と家族の意向を確認している。入居のご相談の際は必要に応じて他のサービスも含めて案内できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に生活を共にする姿勢で過ごしている。時には入居者より調理の仕方や味付けを教わることもある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを密に図り、その思いや意向を聴くことで入居者を共に支える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の馴染みの関係を大切に、いつでも気軽に知人が来苑できる環境づくりに努めている。また、地域のイベント等に参加することで地域との関係が継続するようにしている。	絵の好きな入居者を絵手紙作りにお誘いしたり、野球好きの方とは、その話で盛り上がり、キャッチボールに誘うなど、入居者が昔から慣れ親しんだ趣味や人との関係を継続できるよう支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの意見や意向を尊重した上で、共同生活が円滑に送れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に相談して頂ける関係でいられるように日々の関わりを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの意向を確認するために24時間シートを活用し、その方の今までの生活を把握することで、できる限り一人ひとりの希望を取り入れることができるように努めている。	入居者との会話は曖昧ではなく、はっきり話すよう努め、出身地や特産物、テレビ番組など話しやすい話題をきっかけに思いや意向を聞き出されている。折り紙をされたり、洗濯物を整理されたりするなど、自由に思い思いの時間を楽しんでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	計画作成担当者は入居前の生活歴や環境などの情報を聴き、把握に努めている。また、入居後も日々のやり取りの中からその方の生活習慣などを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートの活用し、一人ひとりの状態に合わせた過ごし方ができるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の希望や意向に合わせ、介護計画を作成している。また、定期的に見直しをし、現状に即した計画になるようにしている。	入居者が生活する中で、「一番何をしたいのか」を基本に、24hシートと連動した具体的な支援項目を取り上げ、介護計画が作成されている。また、ご家族とは作成前後に面談して話を伺い、納得と同意が得られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録、それを共有し、カンファレンスを通じて定期的に見直すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズは常に変わっていくものとの考えを持ち、状況に応じたサービスが提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に多く来苑頂き、地域と入居者が接点を持てるように心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を基に、協力医療機関より往診して頂いている。また、訪問歯科とも連携を取り、状況に合わせ適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医への受信時には、家族に詳しい情報提供を行い、適切な医療サービスが受けられるよう配慮がなされている。月2回の訪問歯科診療を取り入れ、個別の口腔ケアを実施し、入居者の健康管理にも努められている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職は常に連携している。なお、法人内の看護職との連携し、必要なときに適切な看護が受けられる体制を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には医療機械に情報提供を行い安心して治療が受けられるように支援している。入院中も病院へ出向き状況確認を行ったり、病院によっては相談員との連携も行い、退院がスムーズにできるような支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する本人・家族の意向に基づき、かかりつけ医の相談の上、対応するようにしている。	「家族で最期を看たい」との希望を受け入れ、職員は医師・看護師と連携し、看取り支援に取り組まれている。看護師を中心に職員への精神的なフォローが実施するなどして、家族の想いに応えられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを用意している。また、法人内にはAEDが設置しており、救命の研修を過去に実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間想定消防訓練を実施している。地域とも協定を結んでおり、運営推進会議でもお互いの防災対策に対する取り組みについて共有するようにしている。	災害発生時には同法人他のサービスも含めて苑全体での救助体制が整備されている。水害についてもハザードマップを手に入れ検討が行われ、定期訓練では経験の浅い職員を通報や避難誘導役に配置し訓練をするなどの対策が取られている。	地域との災害時協力体制は、運営推進会議などにおいて情報の共有と理解が進められていることから、今後、事業所施設見学や地域住民との合同避難訓練の実施など、より強固な協力体制を構築されることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、馴れ合いにならない介護を心掛けている。	一人ひとりの生活リズムを尊重し、起床や就寝も個々に自由にしていただくなど、「その人なりの時間」を大切にされている。守秘義務については入職時研修で徹底され、申し送り時などには入居者名をインシヤルにする工夫が図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や意向を聴くことを大切にし、入居者が気軽に希望を言えるよ、信頼関係を構築するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課ではなく、入居者のペースに合わせた生活が送れるように努めている。本年度は、特に起床、夕食後の過ごし方についてその人らしい生活になるよう実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類販売に業者が来苑し、ご自分で選び、購入できるような支援を行っている。また、日常的にもその方らしい、季節感と清潔感のある身だしなみでいられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご飯とみそ汁をユニットで作り、盛り付けや量などを入居者自身で決められるようにしている。また、移動販売で入居者が自由に好みのものを購入できるようにしている。	好きな食材や飲み物をできるだけ取り入れ、食が進むよう支援をなされている。月1回、給食会議が行われ、ユニットごとに事前に意見の聴き取りを行い、栄養士や厨房業者と話し合い、おいしい食事が提供できるよう取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて法人内の栄養士に相談をして食事形態を変更するなど工夫しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合わせた口腔ケアを行い、必要に応じて歯科受診へつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時での介助はせず、一人ひとりの排泄リズムに合わせ支援している。自室のトイレでの排泄が安心して行えるように各居室のトイレに手すりを昨年度に設置した。	「トイレで排泄したい」との入居者の意志を尊重し、車椅子利用の方でも手引きでトイレ誘導を行うなど、自立への取り組みがなされている。夜間は心配からオムツにされる入居者もおられるが、日中は極力オムツに頼らないよう支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼るのではなく、水分補給と適切な運動等で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の状態に合わせて、一般浴と機械浴を利用し安心して入浴できるように支援している。また、本人の意向にできるだけ沿った入浴時間で提供するように配慮している。	一人でゆっくり長湯を楽しみたいとの要望に応えられ、それぞれのペースで入浴を楽しめるよう支援が行われている。入浴を面倒がる方には家族(娘さん)に声かけをお願いしたり、同性介助など羞恥心への配慮にも努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じ声掛けを行い、休息して頂いている。夜間気持ちよく眠って頂けるように日中の活動に配慮している。また、自宅で使用した馴染みの布団でお休み頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職が中心となり服薬の支援をしている。かかりつけ薬局との連携もとれている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意分野や活かせたり、役割が持てるように支援している。また、自由に買い物ができるよう移動販売が週に2回来苑し、買い物を楽しくしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や、買い出しにスーパーにでかけたりしている。また、近隣の幼稚園や地区の活動センターも専用の駐車スペースを確保して頂いたり協力して頂いている。なお、外出の様子をホームページにアップしその時の様子が分かるようにしている。	重度化により、外出しにくくなっているが、庭に出るの日光浴や家族にも協力いただき散歩に出るなど、機会を多くするよう努められている。また、スーパーでの買い物や幼稚園に出かけて交流を楽しむなどの支援も行われている。	外出支援には積極的に取り組まれています。日頃の外出状況が家族から理解が得にくいと想定されることから、外出への取り組みを入居者個々にアルバムに残すなど、ご家族に伝える工夫を図り、理解を深められることに期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分のお金で好きな物が購入できるように、週2回移動販売者が来苑している。外出先で好きなものを自分の財布で購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人から手紙が送られてきたり、本人が電話をするなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段から季節の花や飾り付けを行うことで季節感をだし、居心地のよい環境を作るように心掛けている。	車椅子でも動きやすく、生活しやすい環境作りに取り組まれ、利用者それぞれがくつろげる居場所も確保されている。リビングルームはあまり華美な装飾を行わず、利用者の思い出の品やお好みの雑誌などが置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで入居者同士がお話をしながらゆっくりと過ごすなど思いおみに過ごせる空間づくりを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向に合わせ、自宅より使い慣れた家具や思い出の写真などを持ち込んで頂き居心地良く過ごせるようにしている。	居心地良く過ごされるよう、馴染みの寝具や桐箆箆、好みのぬいぐるみや家族の写真などが飾られている。家族にも協力いただき、入居前の生活習慣に沿ったものをお持ちいただいている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境作りと職員の配慮を心掛け、安全で自立した生活が送れるように支援している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームひがしまつやま寿苑

## 目標達成計画

作成日: 平成 29 年 1月 22 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	(防災対策) 地域との協力体制の継続・強化 災害時における職員の役割と対応	・事業所と地域の防災に対する取り組み状況について双方に理解・共有していく ・人災ゼロ、災害に対しては最小限の被害に抑えられるように定期的な訓練を継続する	・運営推進会議にて事業所の防災対策について説明 ・防災訓練の見学・参加の呼びかけ ・地域における防災に対する取り組みを確認する ・防災訓練の継続 ・新任職員に対する災害時対応研修の実施	12ヶ月
2	49	(日常的な外出支援) 入居者の様態や希望に合わせた外出支援	・日常的な外出支援の継続 ・外出支援の見える化	・日頃の散歩や外気浴など日常的な外出支援の継続 ・外出時の様子を写真やウェブ上に掲載し、また個々にアルバムを作成するなど、入居者の日頃の様子を解りやすく見える化する	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。